

わたしが一番きれいだったとき

茨木のり子

わたしが一番きれいだったとき

街々はがらがら崩れていつて

とんでもないところから

青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき

まわりの人達が沢山死んだ

工場で海で名もない島で

わたしはおしゃれのきつかけを落としてしまった

わたしが一番きれいだったとき

だれもやさしい贈り物を捧げてはくれなかった

男たちは拳手の礼しか知らなくて

きれいな眼差だけを残り皆発っていった

わたしが一番きれいだったとき

わたしの頭はからっぽで

わたしの心はかたくなで

手足ばかりが栗色に光った

わたしが一番きれいだったとき

わたしの国は戦争で負けた

そんな馬鹿なことってあるものか
ブラウスの腕をまくり卑屈な街をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき

ラジオからはジャズが溢れた

禁煙を破ったときのようにくらくらしながら

わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

わたしが一番きれいだったとき

わたしはとてもふしあわせ

わたしはとでもとんちんかん

わたしはめっぽうさびしかった

だから決めたできれば長生きすることに

年とってから凄く美しい絵を描いた

フランスのルオー爺さんのように

ね

